

熊本 女性の力輝く

2016年4月の熊本地震を乗り越え、活動の場を広げた女性たちの取り組みが目されている。熊本県内のシングルマザー4人が始めた「スーパーウーマンプロジェクト」。県産の竹炭を使った照明器具など、地元こだわった商品を開発し、全国から注文が舞い込む。スタッフはシングルに限らず約30人に増えた。
(堀家路代)

◆「自分たちで仕事を」
熊本市内の事務所で、女性たちが色とりどりの紙の花を作っていた。大きいものは直径1尺にもなる。



「スーパーウーマンプロジェクト」で製作した紙製の花を手にする宮田さん(右から3人目)。「『震災前より素敵な熊本・素敵な自分』を目指します」

地震が縁 シングルマザーら法人

「イベント会場などを華やかに彩ります。企業からの依頼で、私たちが考案しました」と話すのは、プロジェクトの代表理事でデザインプランナーの宮田幸子さん(45)。自宅で企業のウェブサイトを管理する仕事をしていたが、熊本地震で顧客が被災して仕事が途絶えた。シングルマザーで、2人の子どものは当時、高校生と大学生。収入の見通しがつかず、不安がこみ上げた。フェイスブックに心境をつづると、面識のあるキャリア

商品開発、復興支援も

コンサルタントの村上寛美さん(42)から「私もシングルマザーです」と連絡があり、意気投合。「仕事がなければ自分たちで作れば良い」と仲間4人で商品開発に乗り出した。まず、避難所で生活する知人から「においがきつい」と聞いたことをヒントに、阿蘇で採れる脱臭作用のある土「リモナイト」を使った消臭剤を作った。ネットで寄付を募って資金を集め、販売した。活動は注目され、同じように

地震で仕事を減らした起業家や専門職の女性たちが集まった。同年7月に一般社団法人を設立。「MUZOCA(むぞか)」のブランド名で熊本産の原材料を使ったアクセサリーやインテリア雑貨を製作、販売している。「むぞか」は熊本弁で「かわい」という意味。地震直後、県外の友人が送ってくれたバスソルトやクッキーに心を癒やされた経験が、女性の感性を生かした商品開発につながった。

◆多彩な人材が武器

スタッフの本業はファイナンシャルプランナーやデザイナー、保育士など様々。県内外の企業などから商品企画やセミナー開催などの依頼があり、収益は担当した人の報酬とプロジェクトの運営に充てられる。お互いが講師となり、専門知識を教えあう場も設けた。「生活に追われ、低収入から抜け出せずにいる女性が多い。働きながらステップアップを目指す環境を整えたい」と田上さんは話す。

講演を頼まれる機会も増え、今春には常勤スタッフを1人から4人に増やした。キャリア教育授業に協力を依頼した崇城大(熊本市)の辻田祐純教授(キャリアデザイン)は「女性が得意な横のネットワークづくりを生かした好例。壁を乗り越えて前進するプロセスは、これから社会に出る学生にとって、働き方のリアルなモデルになる」と話す。



「MUZOCA」の照明器具。消臭効果もある

プロジェクトで手がけている事業

- ▼商品の開発・販売
(例)香る陶器アクセサリー、消臭効果のあるインテリア雑貨。企業からの依頼も受ける
- ▼互いのキャリアアップのためのセミナー
(例)コミュニケーション術、マナー講座、美しい字の書き方
- ▼復興支援につながる企業向け熊本研修ツアー
(例)益城町の飲食店で食事。天草で夕日を見る
- ▼企業や大学などでの講演・講座
(例)就活支援、人材育成、プログラミング講座